

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572214054		
法人名	有限会社 せきれい		
事業所名	グループホーム せきれい苑		
所在地	秋田県山本郡三種町鯉川字内鯉川108-4		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者様1人1人の生活歴に着目し、個々に合ったケアの実践を目指している。 ・家族との交流も重視し、家族会を開催し、情報交換を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が自分らしい生活を過ごせるように、希望や意見そして提案の実現のため、熟考し諦めず実践に結び付ける工夫を行っております。施設長や管理者を始め職員全体が、自然な言葉かけや穏やかな笑顔で接する姿と利用者の穏やかな表情と落ち着いた雰囲気がとても印象的でした。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら、ケアプラン作成や、ケアの実践を行っている。	ホーム内の目の届く所に貼り、共有され、実践に繋がっています。現状に合わせた理念作りを行うための体制が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事へ招いたり、災害時の協力要請を行いながら、交流している。	散歩時の会話や野菜のお裾分けの交流があり、又定期的な特養施設、老人保健施設、中学校の行事への参加・交流がおこなわれています。また、施設の行事に近所の住民が参加され、一緒に民謡を楽しまれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行事等で苑にお招きし、苑の様子を伝え、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行い、サービスの向上に活かしている。	包括支援センター職員、民生委員、自治会長、地域住民の方が委員となり、状況や行事報告の他、意見や提案、非常時の対応や緊急システムの設置に関する検討など活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議での報告や、必要な時は連絡を取っている。	町直営の地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席した際に相談、助言をうけています。又、問題点等は役場へ持ちかえり解決策を考えて頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関への施錠はせず、自由に入出入り出来る様にしている。 ・身体拘束はされていない。その人らしく、自由に過ごしている。	マニュアルを整備し、職員研修を行っています。職員は利用者の状況を把握され、出来る限り利用者さんの思いを理解するため、傍で見守りしたり、ペースを合わせる等の工夫により身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へも積極的に参加し、ミーティングでも都度話し合い、再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで話し合い、ある程度理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に情報共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族アンケート実施し、結果を踏まえて、話し合いケアに活かしている。	アンケートの実施結果を運営推進会議に報告し、意見交換等を行い改善に努められています。又職員全体でも話し合い運営改善に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで機会を設け、運営に反映させている。随時受け入れ態勢あり。	施設長や管理者が職員のなかに飛び込み話しやすい雰囲気作りが行われています。職員の意見や考えを積極的に受け止める姿勢が伺え、ケアや環境整備に活用された工夫が観られます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を毎月取れるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の他に、日々のケアの中で、実践しながら学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で、同業者との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や施設等へ聞き取りを行い、なるべく入居者が戸惑いのない様、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族との聞き取り、話し合いを行い、関係作りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	サービス導入時、苑で行える支援をしっかりと説明し、理解してもらった上で、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	苑内で入居者様にも出来ることはやっていただけ、職員と協力して、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族方とも話し合えるよう、家族会や月1回の近況報告等で、本人の状況伝え、イベント等にも参加してもらい、本人を共に支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、外出をし、本人の馴染みの場所へ行ったり、御家族の協力を得、外泊等をし、関係を保つようにしている。	馴染みの美容院への外出支援が行われています。利用者が家族と電話で話したい時は直ぐに話ができるように職員が支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、関わり合いに配慮し、気の合う同士で、軽作業を行ってもらい、席の配置も考慮している。一方的な関わりに対しては、それとなく仲介行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要な限り、相談に応じ、出来る範囲内でフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、ご本人や御家族の意向の把握に努め、意に沿えるよう検討しながら、ケアに取り組んでいる。	家族からの情報、利用者との日々の会話、仕草、表情から、思いや意向の把握に努め、早期に対応できるようケアカンファレンスが行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の生活歴を重視しながら、その人の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の心身の状況やペースに合わせて、1日を有意義に過ごせるよう、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の本人の状況に合わせて、介護計画を作成している。	毎朝のカンファレンスでの職員の意見や考え、また申し送り時に一日ひとりずつ行うケア計画の確認と見直しの話し合いを基に、利用者や家族の意見や要望を踏まえて介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の日々の状況を観察し、記録に残し、カンファレンスや申し送り時に情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	本人や家族の状況に合わせて、その都度、支援やサービスを提供し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりを大切にしながら、楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしながら、適切な医療が受けられるように、支援し努めている。	利用者一人に一人の職員が付き添い、通院の支援を行い家族等へ報告しています。利用者、家族が希望した場合は家族が付き添い、かかりつけ医師との関係の継続ができるよう配慮されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師来苑し、その都度入居者様の状態を伝え、指示を受けている。緊急時も含め、24時間態勢で支援可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療機関と情報共有し、連携しながら、フォローに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その様な状況になった時、主治医、家族等話し合いをしている。又、入居時家族への説明を行っている。	看護師が率先し、職員全体でターミナルケアの研修がおこなわれています。利用者、家族から希望があった際には医療関係者等と連携し対応する姿勢が観られます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回のミーティング等で、看護師より急変時の対応や処置等、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、日勤帯・夜勤帯想定し、年2回避難訓練を行っている。	自治会長、関係機関等と協力され、年2回日勤帯と夜勤帯を想定した避難訓練を行っています。自家発電機が整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人に合わせた声かけをしつつ、誇りやプライバシーに配慮している。	尊敬の念を持ち、人格を尊重された言葉かけやプライバシーへの配慮が観られました。同じ目線に立ち言葉かけや対応がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に声かけし、本人の意思を尊重し、生活できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に、その都度ご本人に合わせて、ケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	声かけをし、ご本人出来る所はしてもらい、出来ない人、場合は、介助で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけをし、食事準備・片付け出来る限り共に行っている。また、好みや食事形態も1人1人に合わせたものにし、対応している。	献立の話題をしながら食事を楽しまれていました。また、食事終了後、コップ拭き、テーブル拭き、備品の整理等本人のできることをお手伝いいただき一緒に片付けをさせていただきました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食べる量・飲む量を把握し、栄養面にも配慮しながら、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、イソジンうがいや、見守りをしながら、本人の状態に合わせ、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の生活や排泄パターンを把握して、自立できるように、支援を行っている。	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握するよう努められ、利用者の何気ない仕草や動きで排泄を察知し、声かけや誘導によって、失禁の改善を行い自立支援に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の好みや食べ方等を把握し、消化しやすく食べやすいよう配慮し、適度な運動も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に沿い、体調を見ながら、個々にあった支援をしている。	入浴は本人の希望に沿った時間帯に入浴できるようにしています。週に2回以上の入浴を楽しめるようにし、入浴を拒否された場合は清拭や足浴をさりげない声かけで勧め、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調・状態に応じて、昼寝をしてもらったり、入眠前の清拭や足浴等、出来る限り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の処方内容や、薬手帳活用し、薬の把握に努めている。また、週2回看護師、週1回往診医師来苑時、報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人出来る事を活かすよう、仕事等の声かけ、気分転換の散歩や外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の体調や天候に合わせ、家族、地域の方達と協力し、出来る限り外出を行っている。	日常的な散歩や地域行事への参加、買い物や外食、ドライブ等、利用者や職員の企画を取り入れ、積極的に外出支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご本人の気持ちを尊重し、御家族の理解も得ながら、出来る限りの支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの訴え時、電話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間を設けて、空気の流れ換えやカーテンの開閉行っている。また、季節に合わせた飾り付けをしている。	暖かいフロアには食事用のテーブルの他、ソファが置かれ、テレビを見ながらくつろげる場所があり、季節を感じる飾りや壁には外出時の写真が貼られ思い思いに居心地の良い空間で過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファや和室にて、思い思いに過ごせるよう、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや椅子を持ってきてもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。	使い慣れた筆筒や必要な日用品が持ち込まれ、利用者ごとに好みのプレートが貼られています。ベットから転落の危険性がある利用者が安全に過ごす事ができるようにマット式の床面にする等の工夫が観られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベット柵、手すり、浴室内滑り止め等、転倒防止に努め、出来る限り自立した生活が送れるよう、工夫している。		